

8 今後のライティング教育

急速にグローバル化が進み、様々な場面で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが求められる現代において、ライティング能力を育成することは大きな課題の1つである。2018年に新たに告示された高等学校学習指導要領では、「論理・表現III」の「書くこと」に関する目標として、以下のことが示されている。

日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができるようとする。

(文部科学省, 2019, p. 115)

このように高等学校では、「目的や場面、状況などに応じて」表現を使い分けたり、「論理の構成や展開を工夫」した上で「読み手を説得」するなどの能力を育成することが必要とされている。さらには、「複数の段落からなる文章」を書くことが要求されており、高等学校においてライティング能力の育成が求められていることがわかる。そこで以下では、ライティングに関わる要素を明確にした上で、それらを指導する上で効果的と思われる方法を示していく。

Raims (1983) は、ライティングに関わる要素として①目的 (purpose), ②句読法 (mechanics), ③語彙の選択 (word choice), ④文法 (grammar), ⑤統語法 (syntax), ⑥構成 (organization), ⑦書き手のプロセス (the writer's process), ⑧読み手 (audience), ⑨内容 (content) の9つを挙げている。また、これら全てが考慮されることで、明確に、流暢に、そして効果的に書き言葉によるコミュニケーションが行われるとしている。つまり、ライティング能力を育成するためには、以下の3点を意識した指導が必要であると考えられる（括弧内の数字は上記の要素を表す）。

- (1) 文章を作成する目的を考慮した上で、語彙の選択から全体の構成に至るまで適切な文章を作成すること (①～⑥)。
 - (2) 設定した目標に基づき、構想と推敲を繰り返しながら文章を書き進めること (⑦)。
 - (3) 目的と読み手を考慮した上で適切な内容を選択すること (①, ⑧, ⑨)。
- これら3点はそれぞれ、テクスト重視のアプローチ、プロセス重視のアプローチ、及びコンテクスト重視のアプローチに関連する項目である。またこれは、ラ

イティング能力を育成するためには、3つのアプローチ全てを活用することが必要であることを意味している。つまり、これまで先行するアプローチに対する反動から新たなアプローチが誕生してきたが、今後は個々のアプローチを逐一的に扱うのではなく、状況に応じて選択、または融合しながら活用していくことが必要となる。

上記のことを受け、3つのアプローチ（以下、テクスト重視を「T」、書き手重視を「W」、コンテクスト重視を「C」と記載）を融合させて行う指導の具体例を提示する。ここでは例として、「海外にある提携校の生徒に日本の食べ物を紹介する」というテーマに基づいた指導の例を示す。（1）まず初めに、目的と読み手を明確にすることが必要である（C）。ここでの目的は「日本の食べ物を紹介する」ことで、読み手は「提携校の生徒」となるであろう。（2）その後、フリー・ライティングやブレーン・ストーミングにより、具体的なアイデアを見つけさせる（W）。例えば、「ピザと比較しながらお好み焼きを紹介する」というアイデアが生まれ、具体例として「食材・作り方・食べ方」の比較が挙げられる。（3）それを踏まえ、次にお好み焼きとピザに関連する語彙（crust や toppings など）や比較をする際のつなぎ言葉（On the other handなど）、または比較級などの文法項目を指導する必要がある（T）。（4）これに加えて、全体の構成として、トピックセンテンスにおいて「お好み焼きとピザにはいくつかの相違点がある」ということを述べ、支持文で具体例を示し、結論文において主題文の言い換えを行うことを指導しなければならない（T）。（5）そして、繰り返し推敲や書き直しを行いながら書き進めるよう促することで、より良い文章を完成させることができる（W）。特に、内容は正しく選択できているかや（C）、正確に表現できているか（T）などについては、文章を書き進めながら繰り返し確認させると良い（W）。そして最後に、正確で適切な文章が書けていることを確認する（T）。

以上のように、ライティングには様々な要素が関連している。そのため、ライティングに関わる全ての側面を一度に指導することは困難である。しかし、3つのアプローチを活用することで、効果的にライティング能力を育成することが可能である。これを踏まえた上で、今後は様々な実証研究が実施され、より効果的な指導法の開発が行われることが期待される。

（上原 岳）